

令和4年度

奈良県公立高等学校入学者特色選抜学力検査問題

国語

注 意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 解答用紙には、受検番号を忘れないように書きなさい。
- 3 解答用紙の※印のところには、何も書いてはいけません。
- 4 答えは必ず解答用紙に書きなさい。

一 次の文章を読み、各問いに答えよ。

白牡丹といふといへども紅ほのか

高浜虚子

まつしろな牡丹を「白牡丹」と名付けた先人に、「といふといへども」と、虚子は異議申し立てをする。

たとえばあなたが牡丹園を散策していくて、一緒にいる相手に、牡丹の純白の美しさを伝えようとすれば、「きれいだね。」のひとことで、じゅうぶんだ。

それがじゅうぶんに通じているのは、あなたが、あなたの声で、それをいつていてるからだ。

そして、牡丹園を吹きわたらほのかな芳香を乗せた風や、花びらを白く輝かせる

A 日ざしを、共有しているからだ。

しかし、その場を離れるとき、通じにくくなる。家に帰って、待っていた家族に伝えようとする。「牡丹が見ごろだったよ。」「きれいだつたよ。」では、じゅうぶんではなくなる。相手はあいづちを打つてくれるだろうが、それはあなたの伝える牡丹の美しさをわかつたわけではなく、牡丹を見てうれしそうにしてるあなたの顔がうれしいからだ。

遠くに住む友人に、手紙で書こうとすると、さらに感動は逃げていく。とはいって、「肉筆」という字が示しているように、あなたの文字の癖は、あなたの肉体の刻印だ。たとえ拙い表現ではあっても、相手の心をつかむことは、難しくない。

メールでは、伝わりづらさに、拍車がかかる。PC画面に映る文字の鮮明さとはうらはらに、牡丹の感動は、そこには乗らない。無意識にそのことがわかっている私たちは、メールの文章では、個人的な内面を吐露しようとはしない。スラングを使って、逆に自己③を大衆に溶かそうとする。あるいは、絵文字やスタンプといった、言葉以外のものに頼ろうとする。

紙の上に噴きつけられたインクによって伝えようとすれば、どうか。

ほんと、砂漠で水遊びをしようと言い出すに等しい、はかない願望といつてもいい。

だから、俳人は言葉を信用しない。虚子は「白牡丹」という言葉を疑つた。真っ白な牡丹を「白牡丹」という。「白牡丹」——美しい響きと字面をそなえた言葉だ。でも、「白」ということで、本当にその白さが伝わるのか。「紅ほのか」、つまり白とは異なる紅色を内包しているといったほうが、かえってその奥深い白さが伝わる。その結果、「といふといへども」という再定義に至る。

この「といふといへども」は、じつは名句と呼ばれるもの多くに、隠されている。

古池や蛙飛びこむ水の音 芭蕉(『蛙合』)

芭蕉の句は、「蛙」というものが「山吹」と結びつけられていたことに、反抗している。弟子の支考^{しこう}が書き留めていた逸話によれば、芭蕉が「蛙飛びこむ水の音」と思いつき、上の五音を置きあぐねていたところに、一番弟子の其角^{きかく}が「山吹や」としたらどうか、と提案した。しかし、芭蕉は其角に賛同せず、自分で「古池や」と置いて、よしとした。

かはづなくゐでの山吹ぢりにけり花のさかりにあはまし物を

読人しらず(『古今和歌集』)

「蛙飛びこむ水の音」のフレーズを耳にした其角の頭の中には、たとえばこんな和歌がよぎったはずだ。井出の玉川は、京都府綴喜郡井手町に今も流れる。奈良時代の公卿^{くぎょう}の左大臣^{たらばなのもろえ}橋^{はし}諸兄^{もろえ}がこの地に別荘を建て、山吹を^Bウえて、風流を楽しんだという。読み人しらずの歌は、その名高い山吹の花ざかりをみられなかつたことを悔やんだものがそうとする。あるいは、絵文字やスタンプといった、言葉以外のものに頼ろうとする。

平安時代の蛙の和歌は、ほんとがこの井出の玉川の蛙を詠んだものだ。清流として名高く、河鹿蛙^{かじかがえる}の澄んだ声も聞こえたにちがいない。

強い連想関係にあつた、蛙、井出の玉川、そして山吹。古き世のうたびとたちがそう詠みならわしているとはいえども、それだけではあるまい。そう考えた芭蕉は、「古池や」と付ける。山吹が清らかに咲く川べりで、美しい声で鳴くだけが蛙ではない。清らかな川ならぬ「古池」に、鳴くのではなく飛びこむ音だつて、情趣があるのでないか。

芭蕉は、山吹と結びついた「蛙」という言葉の美しさを、そのまま信用しなかつた。「蛙」という言葉にまとわりついていたぼろぼろのペンキを、実感を通して、自分の納得できる色にあざやかに塗り替えてしまつたのだ。

(高柳克弘「究極の俳句」による)

(注) スラング＝特定の社会や仲間の間だけに通じる特殊な言葉
スタンプ＝インターネット上のメッセージに添える、感情や心境を表現したイラスト
もの多くに＝ものの多くに 公卿＝大臣などの貴族
河鹿蛙＝蛙の一種で、雄は美声で鳴く

(一) □ A の漢字の読みを平仮名で書き、□ B の片仮名を漢字で書け。

(二) 線①の「から」と同じ意味で使われているものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 明日から始める。

イ 時間がないから急ぐ。

ウ 先生からほめられる。

エ 奈良から出発する。

(三) 線②と筆者が述べるのはなぜか。その理由として最も適切なもの、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 時間が経過しているから。

イ 順序立てて説明していないから。

ウ 牡丹の感動と一緒に味わっていないから。

エ 伝える相手の気持ちを考えていないから。

(四) ————— 線③とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、

次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 人々から認められ、自分の活躍の場を広げようとすること。
イ 人々に自分の考えを伝え、意見を変えさせようとすること。
ウ 人々に自分を合わせ、目立たないようすること。

(五) 高浜虚子が文章中の俳句に「紅ほのか」という言葉を用いた理由を、筆者はどのように考えているか。それを説明した次の□内の(一)に当たる言葉を、文章中から九字で抜き出して書け。

「紅ほのか」という言葉を用いた方が、「白牡丹」の()と考へている。

(六) 芭蕉の俳句の例は、この文章の中でどのような働きをしているか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア これまで述べてきた考へとは対照的な考への例として用い、別の方を示している。

イ これまで述べてきた考への例とは別の時代の例として挙げ、時代により考へは様々であることを説明している。

ウ これまで述べてきた考へには当てはまらない例として示し、問題点を明らかにしている。

エ これまで述べてきた考へについての別の例として加え、考へをより確かなものにしている。

(七) ————— 線④とあるが、芭蕉はどうすることで「あざやかに塗り替えた」のか。簡潔に書け。

(八) ————— 線部を全体の調和を考え、楷書で、一行で丁寧に書け。
(九) 文章中に、「肉筆」と「メールの文章」について述べられている部分がある。手書きの文字で伝えることについてのあなたの考へを、メールの文章で伝えることと比較し、理由を含めて八十字以内で書け。

二

図書委員である春香さんは、生徒会に提出する活動報告書を作成している。各問い合わせよ。

(一)

春香さんは、今年度の図書委員会の活動を付箋に書き出して、A、Bのように整理した。次の【付箋の分類】A、Bの観点として最も適切なものを、それぞれ後のア～オから一つずつ選び、その記号を書け。

【付箋の分類】

- B
- A
- ① 学校図書館の利用者数を調べ、統計を取った。
 - ② 貸し出し回数の多い本を調べ、ランギングを作成した。
 - ③ 月に一度、図書委員会により発行した。
 - ④ 週に一度、昼休みの校内放送でおすすめの本を紹介した。

- ア
イ
ウ
オ
- ① 校内における広報活動について
 - ② 生徒の意見を収集する活動について
 - ③ 他の委員会と協働した活動について
 - ④ 学校図書館の利用状況の調査について
 - ⑤ 学校図書館の蔵書数の確認について

(二)

春香さんは活動報告書に、来年度図書委員会として取り組みたい活動についても書きたいと考え、報告書の下書きを作成した。その後、友達のアドバイスにより修正を加えた。次は【報告書の下書きの一部】と【修正後の報告書の一部】である。作成した下書きを読んだ友達からのようなアドバイスがあったと考えられるか。最も適切なものを、後のア～オから一つ選び、その記号を書け。

【報告書の下書きの一部】

二 来年度の新たな取り組み

来年度に取り組みたいことは、新たな学校図書館行事の開催である。

学校図書館の利用者数は、夏休みや冬休み前には増えるが、その他の月は、一日当たり数人しか利用しておらず、利用者が少ない状況だ。

そこで、利用者数を少しでも増やすために、学校図書館を利用して本に触れる機会となるような行事をたくさん計画し、多くの人に本の面白さを伝えたい。そして、より一層活気のある学校図書館を目指したい。

【修正後の報告書の一部】

二 来年度の新たな取り組み

来年度に取り組みたいことは、新たな学校図書館行事の開催である。

学校図書館の利用者が少ない状況を改善するために、学校図書館で本に触れる機会となるような行事をたくさん計画し、開催したい。

例えば、ブックトークを開催したり、貸し出し回数の多かった本の読書会を開き、感想を交流したりするというような行事だ。多くの人に本の面白さを伝えて、利用者を増やし活気のある学校図書館にしたい。

ア どんな行事を考えているのか、具体例をいくつか挙げて示した方がよいと思う。

イ 学校図書館の利用状況について、より一層詳細な情報を伝えた方がよいと思う。

ウ なぜその活動に取り組みたいのか、理由をたくさん示した方がよいと思う。

エ 中学生が読書することの意義や重要性についても、伝えた方がよいと思う。

三

次の文章を読み、各問に答えよ。

九月二十日あまりのほど、初瀬にまうでて、いとはかなき家にとまりたりしに、いとくるしくて、ただ寝に寝入りぬ。

^③ 夜ふけて、月の窓より洩りたりしに、人の臥したりしどもが衣の上まくらに、白うてうつりなどしたりしこそ、いみじうあはれとおぼえしか。さやうなるをりぞ、人歌よむかし。

（『枕草子』による）

（注）初瀬はせ＝初瀬にある長谷寺はせだら　はかなき家はかなきや＝粗末な家

くるしくて＝疲れて

（二）（一） 線①を現代仮名遣いに直して書け。
（二）（一） 線②の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 少しだけ寝てしまった
イ はやばやと寝てしまった
ウ ぐつすりと寝てしまった
エ うつかり寝てしまった

（三） 線③とあるが、「白く映つていた」ものは何か。それを説明した次の文の（ ）に当てはまる言葉を書け。

窓から洩れてきた（ ）

（四） この文章中で筆者は、どのようなときに人は歌をよむものだと述べているか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 何とも言えないなつかしさを覚えたとき
イ どうしようもない悲しみに沈んだとき
ウ 人のことをとても気の毒に思ったとき
エ たいそうしみじみとした趣を感じたとき